

新		
授業科目名	保健医療研究方法特論Ⅱ	
講義開講時期	前期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	共通教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	伊藤俊治/坂口俊二/谷埜予士次/深澤洋滋

授業概要・目的
保健医療分野における科学的実践活動および研究で使用される主要な統計学的手法と解析法を取り上げ、データの収集方法、その信頼性、妥当性の検証など目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法について、文献での使用例の検討や演習を交えて講義する。複雑な保健科学現象を明らかにし、説明するための一連の手法を教授する。
到達目標
保健医療分野における研究で使用されるデータの統計学的解析方法について研究倫理を理解しながら学び、研究者として必要な情報処理能力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・倫理に基づく行動力 ・情報処理力
授業計画表
【坂口】 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データの解析方法に関して講義する。 1 研究データ解析方法総論1(坂口) 2 研究データ解析方法総論2(坂口) 3 研究データ解析方法総論3(坂口) 7 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データの解析方法1(坂口) 8 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データの解析方法2(坂口) 9 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データの解析方法3(坂口) 【伊藤】 力学的刺激及び鍼灸刺激の分子生物学的手法を用いたデータの解析方法に関して講義する。 4 力学的刺激及び鍼灸刺激の分子生物学的手法を用いたデータの解析方法1(伊藤) 5 力学的刺激及び鍼灸刺激の分子生物学的手法を用いたデータの解析方法2(伊藤) 6 力学的刺激及び鍼灸刺激の分子生物学的手法を用いたデータの解析方法3(伊藤) 【谷埜】 理学療法評価及び治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究データの解析方法に関して講義する。 10 理学療法評価及び治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究データの解析方法1(谷埜) 11 理学療法評価及び治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究データの解析方法2(谷埜) 12 理学療法評価及び治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究データの解析方法3(谷埜) 【深澤】 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究データの解析方法に関して講義する。 13 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究データの解析方法1(深澤) 14 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究データの解析方法2(深澤) 15 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究データの解析方法3(深澤)
成績評価方法と基準
定期試験70%、レポート課題30%で評価する。
フィードバック
レポート課題に関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深めること。
テキスト
必要に応じて資料を配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・伊藤:診療・研究棟4階407研究室 金曜を除く随時、研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。 ・坂口:診療・研究棟4階412教室 水曜日12:10~13:00 ・谷埜:4号館7階D723研究室 月曜日12:15~13:00 ・深澤:診療・研究棟4階404研究室 木曜日12:30~13:00

旧		
授業科目名	保健医療研究方法特論Ⅱ	
講義開講時期	前期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	共通教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	伊藤俊治/坂口俊二/谷埜予士次/深澤洋滋

授業概要・目的
保健医療分野における科学的実践活動および研究で使用される主要な統計学的手法と解析法を取り上げ、データの収集方法、その信頼性、妥当性の検証など目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法について、文献での使用例の検討や演習を交えて講義する。複雑な保健科学現象を明らかにし、説明するための一連の手法を教授する。
到達目標
保健医療分野における研究で使用されるデータの統計学的解析方法について研究倫理を理解しながら学び、研究者として必要な情報処理能力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・倫理に基づく行動力 ・情報処理力
授業計画表
【坂口】 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データの解析方法に関して講義する。 1 研究データ解析方法総論1(坂口) 2 研究データ解析方法総論2(坂口) 3 研究データ解析方法総論3(坂口) 7 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データの解析方法1(坂口) 8 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データの解析方法2(坂口) 9 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データの解析方法3(坂口) 【伊藤】 力学的刺激及び鍼灸刺激の分子生物学的手法を用いたデータの解析方法に関して講義する。 4 力学的刺激及び鍼灸刺激の分子生物学的手法を用いたデータの解析方法1(伊藤) 5 力学的刺激及び鍼灸刺激の分子生物学的手法を用いたデータの解析方法2(伊藤) 6 力学的刺激及び鍼灸刺激の分子生物学的手法を用いたデータの解析方法3(伊藤) 【谷埜】 理学療法評価及び治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究データの解析方法に関して講義する。 10 理学療法評価及び治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究データの解析方法1(谷埜) 11 理学療法評価及び治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究データの解析方法2(谷埜) 12 理学療法評価及び治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究データの解析方法3(谷埜) 【深澤】 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究データの解析方法に関して講義する。 13 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究データの解析方法1(深澤) 14 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究データの解析方法2(深澤) 15 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究データの解析方法3(深澤)
成績評価方法と基準
各教員からの課題に対するレポートで評価する。
フィードバック
レポート課題に関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深めること。
テキスト
必要に応じて資料を配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・伊藤:診療・研究棟4階407研究室 ・坂口:診療・研究棟4階412教室 ・谷埜:4号館7階D723研究室 ・深澤:研究棟4階404研究室

新		
授業科目名	保健医療科学基盤講義Ⅰ	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	竹田知広・大瀧博文

授業概要・目的
保健医療分野で用いられている様々な理論、概念に精通するための学問を深めるだけでなく、現在の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。この講義を通して、学際的な立場から研究活動を遂行することができる人材を養成することを目的とする。具体的には、血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究、臨床微生物的検査の効率化に関する最新の理論、知識を文献より情報収集し、まとめた成果を発表およびディスカッションを行うことで理解を深める。
到達目標
保健医療分野(医科学領域)での血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究、臨床微生物的検査の効率化に関する最新の理論、知識とその研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
1 血小板と免疫細胞のクロストークに関する最新理論(竹田) 2 血小板と免疫細胞のクロストークに関する研究方法(竹田) 3 血液凝固因子と免疫細胞のクロストークに関する最新理論(竹田) 4 血液凝固因子と免疫細胞のクロストークに関する研究方法(竹田) 5 免疫血栓に関する最新理論と研究方法(竹田) 6 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論1(大瀧) 7 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論2(大瀧) 8 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論3(大瀧) 9 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論4(大瀧) 10臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論5(大瀧) 11院生による医科学領域の研究発表とディスカッション1(竹田、大瀧) 12院生による医科学領域の研究発表とディスカッション2(竹田、大瀧) 13院生による医科学領域の研究発表とディスカッション3(竹田、大瀧) 14院生による医科学領域の研究発表とディスカッション4(竹田、大瀧) 15まとめ(竹田、大瀧)
成績評価方法と基準
定期試験60%、レポート課題20%、プレゼンテーション能力20%で評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配布する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・竹田:管理棟2階208研究室 月曜日13:00～15:00 ・大瀧:管理棟2階207研究室 月曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	保健医療科学基盤講義(竹田・大瀧)	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	竹田知広・大瀧博文

授業概要・目的
保健医療分野で用いられている様々な理論、概念に精通するための学問を深めるだけでなく、現在の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。この講義を通して、学際的な立場から研究活動を遂行することができる人材を養成することを目的とする。具体的には、最新の理論、知識を文献より情報収集し、まとめた成果を発表およびディスカッションを行うことで理解を深める。
到達目標
保健医療分野の最新の理論、知識とその研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
【竹田・大瀧】 血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究、臨床微生物的検査の効率化に関する研究に関する理論や方法論について講義する。 1 血小板と免疫細胞のクロストークに関する最新理論(竹田) 2 血小板と免疫細胞のクロストークに関する研究方法(竹田) 3 血液凝固因子と免疫細胞のクロストークに関する最新理論(竹田) 4 血液凝固因子と免疫細胞のクロストークに関する研究方法(竹田) 5 免疫血栓に関する最新理論と研究方法(竹田) 6 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論1(大瀧) 7 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論2(大瀧) 8 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論3(大瀧) 9 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論4(大瀧) 10 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論5(大瀧) 11院生による医科学領域の研究発表とディスカッション1(竹田、大瀧) 12院生による医科学領域の研究発表とディスカッション2(竹田、大瀧) 13院生による医科学領域の研究発表とディスカッション3(竹田、大瀧) 14院生による医科学領域の研究発表とディスカッション4(竹田、大瀧) 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配布する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・竹田:1号館207研究室 ・大瀧:管理棟207研究室

新		
授業科目名	保健医療科学基盤講義Ⅱ	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	谷埜予士次・文野住文

授業概要・目的
保健医療分野で用いられている様々な理論、概念に精通するための学問を深めるだけでなく、現在の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。この講義を通して、学際的な立場から研究活動を遂行することができる人材を養成することを目的とする。具体的には、理学療法評価に関する生体力学的・神経生理学的研究に関する理論や方法論について講義および文献より情報収集し、まとめた成果を発表およびディスカッションを行うことで理解を深める。
到達目標
保健医療分野の理学療法評価における最新の理論、知識とその研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
1 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論1(谷埜) 2 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論2(谷埜) 3 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論3(谷埜) 4 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論4(谷埜) 5 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論5(谷埜) 6 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論1(文野) 7 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論2(文野) 8 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論3(文野) 9 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論4(文野) 10 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論5(文野) 11 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とディスカッション1(谷埜、文野) 12 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とディスカッション2(谷埜、文野) 13 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とディスカッション3(谷埜、文野) 14 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とディスカッション4(谷埜、文野) 15 まとめ(谷埜、文野)
成績評価方法と基準
定期試験60%、レポート課題20%、プレゼンテーション能力20%で評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・谷埜:4号館7階D723研究室 月曜日12:15～13:00 ・文野:4号館7階D719研究室 木曜日12:10～13:00

旧		
授業科目名	保健医療科学基盤講義(谷埜・文野)	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	谷埜予士次・文野住文

授業概要・目的
保健医療分野で用いられている様々な理論、概念に精通するための学問を深めるだけでなく、現在の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。この講義を通して、学際的な立場から研究活動を遂行することができる人材を養成することを目的とする。具体的には、最新の理論、知識を文献より情報収集し、まとめた成果を発表およびディスカッションを行うことで理解を深める。
到達目標
保健医療分野の最新の理論、知識とその研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
【谷埜・文野】 理学療法評価に関する生体力学的・神経生理学的研究に関する理論や方法論について講義する。 1 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論1(谷埜) 2 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論2(谷埜) 3 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論3(谷埜) 4 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論4(谷埜) 5 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論5(谷埜) 6 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論1(文野) 7 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論2(文野) 8 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論3(文野) 9 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論4(文野) 10 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論5(文野) 11 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とディスカッション1(谷埜、文野) 12 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とディスカッション2(谷埜、文野) 13 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とディスカッション3(谷埜、文野) 14 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とディスカッション4(谷埜、文野) 15 まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・谷埜:4号館7階D723研究室 ・文野:4号館7階D711研究室

新		
授業科目名	保健医療科学基盤講義Ⅲ	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的
保健医療分野で用いられている様々な理論、概念に精通するための学問を深めるだけでなく、現在の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。この講義を通して、学際的な立場から研究活動を遂行することができる人材を養成することを目的とする。具体的には、鍼刺激が筋酸素動態及び自律神経機能に及ぼす研究に関する最新の理論、知識を文献より情報収集し、まとめた成果を発表およびディスカッションを行うことで理解を深める。
到達目標
保健医療分野(鍼灸領域)において鍼刺激が筋酸素動態及び自律神経機能に及ぼす研究に関する最新の理論、知識とその研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
1鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論1 2鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論2 3鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論3 4鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論4 5鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論5 6鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論1 7鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論2 8鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論3 9鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論4 10鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論5 11院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とディスカッション1 12院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とディスカッション2 13院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とディスカッション3 14院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とディスカッション4 15まとめ
成績評価方法と基準
定期試験60%、レポート課題20%、プレゼンテーション能力20%で評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配布する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階414研究室 火曜日12:00～13:00

旧		
授業科目名	保健医療科学基盤講義(木村)	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的
保健医療分野で用いられている様々な理論、概念に精通するための学問を深めるだけでなく、現在の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。この講義を通して、学際的な立場から研究活動を遂行することができる人材を養成することを目的とする。具体的には、最新の理論、知識を文献より情報収集し、まとめた成果を発表およびディスカッションを行うことで理解を深める。
到達目標
保健医療分野の最新の理論、知識とその研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
【木村】 鍼刺激が筋酸素動態及び自律神経機能に及ぼす研究に関する理論や方法論について講義する。 1鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論1 2鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論2 3鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論3 4鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論4 5鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する最新理論と方法論5 6鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論1 7鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論2 8鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論3 9鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論4 10鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する最新理論と方法論5 11院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とディスカッション1 12院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とディスカッション2 13院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とディスカッション3 14院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とディスカッション4 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配布する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・診療・研究棟4階414研究室

新		
授業科目名	保健医療科学実践演習Ⅰ	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	竹田知広・大瀧博文

<p>授業概要・目的</p> <p>保健医療科学基礎講義の知識を基盤とし、保健医療分野で用いられている様々な理論、概念を追求する研究の具体的な研究計画の立案、研究実施に向けた具体的な研究について演習を行います。具体的には、血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究、臨床微生物的検査の効率化に関する具体的な研究方法について演習する。院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。</p>
<p>到達目標</p> <p>保健医療分野(医科学領域)の血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究、臨床微生物的検査の効率化に関する具体的な研究方法と研究内容を演習し、その成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー</p> <p>・専門技術 ・課題探究力</p>
<p>授業計画表</p> <p>1 FCMデータ解析演習(竹田) 2 凝固波形成解析演習(竹田) 3 画像解析演習1(竹田) 4 画像解析演習2(竹田) 5 血小板機能解析演習(竹田) 6 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(大瀧) 7 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(大瀧) 8 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(大瀧) 9 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(大瀧) 10 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(大瀧) 11 院生による医科学領域の研究発表とデータに関するディスカッション1(竹田、大瀧) 12 院生による医科学領域の研究発表とデータに関するディスカッション2(竹田、大瀧) 13 院生による医科学領域の研究発表とディスカッション3(竹田、大瀧) 14 院生による医科学領域の研究発表とディスカッション4(竹田、大瀧) 15 まとめ(竹田、大瀧)</p>
<p>成績評価方法と基準</p> <p>レポート課題50%、プレゼンテーション能力50%で評価する。</p>
<p>フィードバック</p> <p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
<p>自己学修</p> <p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料配付する。</p>
<p>参考資料</p> <p>授業中に紹介する。</p>
<p>研究室・オフィスアワー</p> <p>・竹田:管理棟2階208研究室 月曜日13:00~15:00 ・大瀧:管理棟2階207研究室 月曜日12:30~13:00</p>

旧		
授業科目名	保健医療科学実践演習(竹田・大瀧)	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	竹田知広・大瀧博文

<p>授業概要・目的</p> <p>保健医療科学基礎講義の知識を基盤とし、保健医療分野で用いられている様々な理論、概念を追求する研究の具体的な研究計画の立案、研究実施に向けた具体的な研究について演習を行います。具体的には、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。</p>
<p>到達目標</p> <p>保健医療分野の様々な理論を追求する具体的な研究方法と研究内容を演習し、その成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー</p> <p>・専門技術 ・課題探究力</p>
<p>授業計画表</p> <p>【竹田・大瀧】 血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究、臨床微生物的検査の効率化に関する具体的な研究方法について演習する。</p> <p>1 FCMデータ解析演習(竹田) 2 凝固波形成解析演習(竹田) 3 画像解析演習1(竹田) 4 画像解析演習2(竹田) 5 血小板機能解析演習(竹田) 6 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(大瀧) 7 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(大瀧) 8 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(大瀧) 9 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(大瀧) 10 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(大瀧) 11 院生による医科学領域の研究発表とデータに関するディスカッション1(竹田、大瀧) 12 院生による医科学領域の研究発表とデータに関するディスカッション2(竹田、大瀧) 13 院生による医科学領域の研究発表とディスカッション3(竹田、大瀧) 14 院生による医科学領域の研究発表とディスカッション4(竹田、大瀧) 15 まとめ</p>
<p>成績評価方法と基準</p> <p>授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。</p>
<p>フィードバック</p> <p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
<p>自己学修</p> <p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料配付する。</p>
<p>参考資料</p> <p>授業中に紹介する。</p>
<p>研究室・オフィスアワー</p> <p>・竹田:1号館207研究室 ・大瀧:管理棟207研究室</p>

新		
授業科目名	保健医療科学実践演習Ⅱ	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	谷埜予士次・文野住文

授業概要・目的
保健医療科学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療分野で用いられている様々な理論、概念を追求する研究の具体的な研究計画の立案、研究実施に向けた具体的な研究について演習を行います。具体的には、理学療法評価に関する神経生理学的・生体力学的研究に関する具体的な研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。
到達目標
保健医療分野での理学療法評価に関する神経生理学的・生体力学的研究に関する具体的な研究方法と研究内容を演習し、その成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門技術 ・課題探究力
授業計画表
1 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(谷埜) 2 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(谷埜) 3 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(谷埜) 4 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(谷埜) 5 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(谷埜) 6 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(文野) 7 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(文野) 8 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(文野) 9 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(文野) 10 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(文野) 11 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション1(谷埜、文野) 12 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション2(谷埜、文野) 13 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション3(谷埜、文野) 14 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション4(谷埜、文野) 15 まとめ(谷埜、文野)
成績評価方法と基準
レポート課題50%、プレゼンテーション能力50%で評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・谷埜:4号館7階D723研究室 月曜日12:15～13:00 ・文野:4号館7階D719研究室 木曜日12:10～13:00

旧		
授業科目名	保健医療科学実践演習(谷埜・文野)	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	谷埜予士次・文野住文

授業概要・目的
保健医療科学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療分野で用いられている様々な理論、概念を追求する研究の具体的な研究計画の立案、研究実施に向けた具体的な研究について演習を行います。具体的には、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。
到達目標
保健医療分野の様々な理論を追求する具体的な研究方法と研究内容を演習し、その成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門技術 ・課題探究力
授業計画表
【谷埜・文野】 理学療法評価に関する神経生理学的・生体力学的研究に関する具体的な研究方法について演習する。 1 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(谷埜) 2 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(谷埜) 3 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(谷埜) 4 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(谷埜) 5 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(谷埜) 6 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(文野) 7 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(文野) 8 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(文野) 9 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(文野) 10 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(文野) 11 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション1(谷埜、文野) 12 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション2(谷埜、文野) 13 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション3(谷埜、文野) 14 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション4(谷埜、文野) 15 まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・谷埜:4号館7階D723研究室 ・文野:4号館7階D711研究室

新		
授業科目名	保健医療科学実践演習Ⅲ	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的
保健医療科学基礎講義の知識を基盤とし、保健医療分野で用いられている様々な理論、概念を追求する研究の具体的な研究計画の立案、研究実施に向けた具体的な研究について演習を行います。具体的には、鍼刺激が筋酸素動態及び自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。
到達目標
保健医療分野(鍼灸領域)において鍼刺激が筋酸素動態及び自律神経機能に及ぼす様々な理論を追求する具体的な研究方法と研究内容を演習し、その成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門技術 ・課題探究力
授業計画表
1鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析1 2鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析2 3鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析3 4鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析4 5鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析5 6鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析1 7鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析2 8鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析3 9鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析4 10鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析5 11院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション1 12院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション2 13院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション3 14院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション4 15まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題50%、プレゼンテーション能力50%で評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階414研究室 火曜日12:00～13:00

旧		
授業科目名	保健医療科学実践演習(木村)	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的
保健医療科学基礎講義の知識を基盤とし、保健医療分野で用いられている様々な理論、概念を追求する研究の具体的な研究計画の立案、研究実施に向けた具体的な研究について演習を行います。具体的には、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。
到達目標
保健医療分野の様々な理論を追求する具体的な研究方法と研究内容を演習し、その成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門技術 ・課題探究力
授業計画表
【木村】 鍼刺激が筋酸素動態及び自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究方法について演習する。
1鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析1 2鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析2 3鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析3 4鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析4 5鍼刺激が筋酸素動態に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析5 6鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析1 7鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析2 8鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析3 9鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析4 10鍼刺激が自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析5 11院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション1 12院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション2 13院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション3 14院生による鍼刺激が神経・筋機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション4 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・診療・研究棟4階414研究室

新		
授業科目名	保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	鈴木俊明・福本悠樹

授業概要・目的
保健医療学領域の各職種で用いている高度な専門技術で、将来的にも必要となる最新技術の開発に関して講義する。この講義を通して、保健医療学領域の各職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材を養成することを目的とする。具体的には、理学療法で用いられている運動イメージや運動観察の最新技術の神経生理学的理論、実際の技術の実践応用について最新の文献を用いてまとめ、ディスカッションを行う。
到達目標
保健医療分野の理学療法で用いられている運動イメージや運動観察の最新で高度な専門技術の開発に関する研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
1運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論1(鈴木、福本) 2運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論2(鈴木、福本) 3運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論3(鈴木、福本) 4運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論4(鈴木、福本) 5運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論5(鈴木、福本) 6運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論1(鈴木) 7運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論2(鈴木) 8運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論3(鈴木) 9運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論4(鈴木) 10運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論5(鈴木) 11院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する神経生理学機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション1(鈴木、福本) 12院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する神経生理学機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション2(鈴木、福本) 13院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する神経生理学機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション3(鈴木、福本) 14院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する神経生理学機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション4(鈴木、福本) 15まとめ(鈴木、福本)
成績評価方法と基準
定期試験60%、レポート課題20%、プレゼンテーション能力20%で評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配布する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・鈴木:4号館7階D724研究室 火曜日・金曜日12:30～13:00 ・福本:4号館5階D513第1共同研究室 月曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	保健医療技術開発学基盤講義(鈴木・福本)	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	鈴木俊明・福本悠樹

授業概要・目的
保健医療学領域の各職種で用いている高度な専門技術で、将来的にも必要となる最新技術の開発に関して講義する。この講義を通して、保健医療学領域の各職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材を養成することを目的とする。具体的には、最新技術の理論、実際の技術の実践応用について最新の文献を用いてまとめ、ディスカッションを行う。
到達目標
保健医療分野の最新で高度な専門技術の開発に関する研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
【鈴木・福本】 理学療法領域で用いられている運動イメージや運動観察の最新の治療法に関して神経生理学的研究より講義する。 1運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論1(鈴木、福本) 2運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論2(鈴木、福本) 3運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論3(鈴木、福本) 4運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論4(鈴木、福本) 5運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論5(鈴木、福本) 6運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論1(鈴木) 7運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論2(鈴木) 8運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論3(鈴木) 9運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論4(鈴木) 10運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論5(鈴木) 11院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する神経生理学機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション1(鈴木、福本) 12院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する神経生理学機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション2(鈴木、福本) 13院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する神経生理学機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション3(鈴木、福本) 14院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する神経生理学機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション4(鈴木、福本) 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配布する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・鈴木:4号館7階724研究室 ・福本:4号館5階第一共同研究室

新		
授業科目名	保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	大歳太郎

授業概要・目的
保健医療学領域の各職種で用いている高度な専門技術で、将来的にも必要となる最新技術の開発に関して講義する。この講義を通して、保健医療学領域の各職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材を養成することを目的とする。具体的には、自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法や最新技術の理論、実践的な技術の実践応用について最新の文献を用いてまとめ、ディスカッションを行うことで理解を深める。
到達目標
保健医療学分野の作業療法領域で行われている自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新で高度な専門技術の開発に関する研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
1自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論1 2自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論2 3自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論3 4自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論4 5自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論5 6自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論1 7自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論2 8自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論3 9自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論4 10自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論5 11院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法発表とディスカッション1 12院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法発表とディスカッション2 13院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法発表とディスカッション3 14院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法発表とディスカッション4 15まとめ
成績評価方法と基準
定期試験60%、レポート課題20%、プレゼンテーション能力20%で評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D716研究室 月曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	保健医療技術開発学基盤講義(大歳)	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	大歳太郎

授業概要・目的
保健医療学領域の各職種で用いている高度な専門技術で、将来的にも必要となる最新技術の開発に関して講義する。この講義を通して、保健医療学領域の各職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材を養成することを目的とする。具体的には、最新技術の理論、実践的な技術の実践応用について最新の文献を用いてまとめ、ディスカッションを行う。
到達目標
保健医療分野の最新で高度な専門技術の開発に関する研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
【大歳】 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法や治療法に関する研究方法について講義する。 1 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論1 2 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論2 3 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論3 4 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論4 5 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法に関する研究方法論5 6 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論1 7 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論2 8 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論3 9 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論4 10 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法論5 11 院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法発表とディスカッション1 12 院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法発表とディスカッション2 13 院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法発表とディスカッション3 14 院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する治療法に関する研究方法発表とディスカッション4 15 まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館D716研究室

新		
授業科目名	保健医療技術開発学基礎講義Ⅲ	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面講義とオンライン講義の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	坂口俊二・谷万喜子

授業概要・目的
保健医療学領域の各職種で用いている高度な専門技術で、将来的にも必要となる最新技術の開発に関して講義する。この講義を通して、保健医療学領域の各職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材を養成することを目的とする。具体的には、自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的理論、実際の技術の実践応用について最新の文献を用いてまとめ、ディスカッションを行う。
到達目標
保健医療分野の鍼灸領域で用いられている自律神経機能障害及び神経疾患への最新で高度な専門技術の開発に関する研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
<ol style="list-style-type: none"> 1 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論1(坂口) 2 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論2(坂口) 3 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論3(坂口) 4 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論4(坂口) 5 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論5(坂口) 6 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論1(谷) 7 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論2(谷) 8 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論3(谷) 9 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論4(谷) 10 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論5(谷) 11 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション1(坂口、谷) 12 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション2(坂口、谷) 13 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション3(坂口、谷) 14 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション4(坂口、谷) 15 まとめ(坂口、谷)
成績評価方法と基準
定期試験60%、レポート課題20%、プレゼンテーション能力20%で評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・坂口：診療・研究棟4階412教室 水曜日12:10～13:00 ・谷：診療・研究棟3階307教室 月曜日12:10～13:00

旧		
授業科目名	保健医療技術開発学基礎講義(坂口・谷)	
講義開講時期	後期	
授業形態	講義(対面講義とオンライン講義の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	坂口俊二・谷万喜子

授業概要・目的
保健医療学領域の各職種で用いている高度な専門技術で、将来的にも必要となる最新技術の開発に関して講義する。この講義を通して、保健医療学領域の各職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材を養成することを目的とする。具体的には、最新技術の理論、実際の技術の実践応用について最新の文献を用いてまとめ、ディスカッションを行う。
到達目標
保健医療分野の最新で高度な専門技術の開発に関する研究方法を学び、その成果を発表しディスカッションできる論理的思考力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門知識 ・論理的思考力
授業計画表
【坂口・谷】 自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的研究を講義する。
<ol style="list-style-type: none"> 1 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論1(坂口) 2 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論2(坂口) 3 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論3(坂口) 4 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論4(坂口) 5 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論5(坂口) 6 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論1(谷) 7 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論2(谷) 8 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論3(谷) 9 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論4(谷) 10 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論5(谷) 11 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション1(坂口、谷) 12 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション2(坂口、谷) 13 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション3(坂口、谷) 14 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的機能に及ぼす研究方法発表とディスカッション4(坂口、谷) 15 まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
坂口：診療・研究棟4階412教室 谷：研究棟3階307教室

新		
授業科目名	保健医療技術開発学実践演習Ⅰ	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	鈴木俊明・福本悠樹

授業概要・目的
保健医療技術開発学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療分野の各職種の高度な専門技術で、将来的にも必要となる新たな技術開発に関する演習を行う。具体的には、理学療法で用いられている運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する具体的な神経生理学的研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施します。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。
到達目標
保健医療分野の理学療法で用いられている運動イメージや運動観察の最新の高度な専門技術の技術開発に関する演習を実施し、それに関する研究成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門技術 ・課題探究力
授業計画表
1運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(鈴木、福本) 2運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(鈴木、福本) 3運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(鈴木、福本) 4運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(鈴木、福本) 5運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(鈴木、福本) 6運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(鈴木) 7運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(鈴木) 8運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(鈴木) 9運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(鈴木) 10運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(鈴木) 11院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション1(鈴木、福本) 12院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション2(鈴木、福本) 13院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション3(鈴木、福本) 14院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション4(鈴木、福本) 15まとめ(鈴木、福本)
成績評価方法と基準
レポート課題50%、プレゼンテーション能力50%で評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・鈴木:4号館7階D724研究室 火曜日、金曜日12:30~13:00 ・福本:4号館5階D513第1共同研究室 月曜日12:30~13:00

旧		
授業科目名	保健医療技術開発学実践演習(鈴木・福本)	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	鈴木俊明・福本悠樹

授業概要・目的
保健医療技術開発学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療学領域の各職種の高度な専門技術で、将来的にも必要となる新たな技術開発に関する演習を行う。具体的には、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施します。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。
到達目標
保健医療分野の最新の高度な専門技術の技術開発に関する演習し、それに関する研究成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・専門技術 ・課題探究力
授業計画表
【鈴木・福本】 理学療法領域で用いられている運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関して神経生理学的研究に関する具体的な研究方法について演習する。 1運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(鈴木、福本) 2運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(鈴木、福本) 3運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(鈴木、福本) 4運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(鈴木、福本) 5運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(鈴木、福本) 6運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(鈴木) 7運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(鈴木) 8運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(鈴木) 9運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(鈴木) 10運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(鈴木) 11院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション1(鈴木、福本) 12院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション2(鈴木、福本) 13院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション3(鈴木、福本) 14院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション4(鈴木、福本) 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
講義内容に関する文献を調べて知識を深める。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
・鈴木:4号館7階724研究室 ・福本:4号館5階第一共同研究室

新		
授業科目名	保健医療技術開発学実践演習Ⅱ	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	大歳太郎

<p>授業概要・目的</p> <p>保健医療技術開発学基礎講義の知識を基盤とし、保健医療学領域の各職種の高度な専門技術で、将来的にも必要となる新たな技術開発に関する演習を行う。具体的には、自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法開発に関する具体的な研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施します。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。</p>
<p>到達目標</p> <p>保健医療分野の作業療法で行われている自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び最新で高度な専門技術の技術開発に関する演習し、それに関する研究成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー</p> <p>・専門技術 ・課題探究力</p>
<p>授業計画表</p> <p>1自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析1 2自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析2 3自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析3 4自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析4 5自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析5 6自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析1 7自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析2 8自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析3 9自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析4 10自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析5 11院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法に関する研究発表とデータに関するディスカッション1 12院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法に関する研究発表とデータに関するディスカッション2 13院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法に関する研究発表とデータに関するディスカッション3 14院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法に関する研究発表とデータに関するディスカッション4 15まとめ</p>
<p>成績評価方法と基準</p> <p>レポート課題50%、プレゼンテーション能力50%で評価する。</p>
<p>フィードバック</p> <p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
<p>自己学修</p> <p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料配付する。</p>
<p>参考資料</p> <p>授業中に紹介する。</p>
<p>研究室・オフィスアワー</p> <p>4号館7階D716研究室 月曜日12:30～13:00</p>

旧		
授業科目名	保健医療技術開発学実践演習(大歳)	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	大歳太郎

<p>授業概要・目的</p> <p>保健医療技術開発学基礎講義の知識を基盤とし、保健医療学領域の各職種の高度な専門技術で、将来的にも必要となる新たな技術開発に関する演習を行う。具体的には、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施します。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。</p>
<p>到達目標</p> <p>保健医療分野の最新で高度な専門技術の技術開発に関する演習し、それに関する研究成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー</p> <p>・専門技術 ・課題探究力</p>
<p>授業計画表</p> <p>【大歳】 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法の開発に関する研究方法について講義する。</p> <p>1自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析1 2自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析2 3自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析3 4自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析4 5自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する具体的な研究の演習とデータ分析5 6自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析1 7自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析2 8自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析3 9自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析4 10自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する具体的な研究の演習とデータ分析5 11院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法に関する研究発表とデータに関するディスカッション1 12院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法に関する研究発表とデータに関するディスカッション2 13院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法に関する研究発表とデータに関するディスカッション3 14院生による自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法に関する研究発表とデータに関するディスカッション4 15まとめ</p>
<p>成績評価方法と基準</p> <p>授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。</p>
<p>フィードバック</p> <p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
<p>自己学修</p> <p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料配付する。</p>
<p>参考資料</p> <p>授業中に紹介する。</p>
<p>研究室・オフィスアワー</p> <p>4号館D716研究室</p>

新		
授業科目名	保健医療技術開発学実践演習Ⅲ	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	坂口俊二・谷万喜子

<p>授業概要・目的</p> <p>保健医療技術開発学基礎講義の知識を基盤とし、保健医療学領域の各職種の高度な専門技術で、将来的にも必要となる新たな技術開発に関する演習を行う。具体的には、自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的研究に関する具体的な研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施します。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。</p>
<p>到達目標</p> <p>保健医療分野の鍼灸医学における自律神経機能障害及び神経疾患への鍼灸治療の最新で高度な専門技術の技術開発に関する演習を実施し、それに関する研究成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー</p> <p>・専門技術 ・課題探究力</p>
<p>授業計画表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(坂口) 2 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(坂口) 3 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(坂口) 4 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(坂口) 5 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(坂口) 6 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(谷) 7 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(谷) 8 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(谷) 9 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(谷) 10 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(谷) 11 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション1(坂口、谷) 12 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション2(坂口、谷) 13 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション3(坂口、谷) 14 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション4(坂口、谷) 15 まとめ(坂口、谷)
<p>成績評価方法と基準</p> <p>レポート課題50%、プレゼンテーション能力50%で評価する。</p>
<p>フィードバック</p> <p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
<p>自己学修</p> <p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料配付する。</p>
<p>参考資料</p> <p>授業中に紹介する。</p>
<p>研究室・オフィスアワー</p> <p>・坂口：診療・研究棟4階412教室 水曜日12:10～13:00 ・谷：診療・研究棟3階307教室 月曜日12:10～13:00</p>

旧		
授業科目名	保健医療技術開発学実践演習(坂口・谷)	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	坂口俊二・谷万喜子

<p>授業概要・目的</p> <p>保健医療技術開発学基礎講義の知識を基盤とし、保健医療学領域の各職種の高度な専門技術で、将来的にも必要となる新たな技術開発に関する演習を行う。具体的には、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施します。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。</p>
<p>到達目標</p> <p>保健医療分野の最新で高度な専門技術の技術開発に関する演習し、それに関する研究成果を発表しディスカッションできる研究課題に対する探究力を習得することができる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー</p> <p>・専門技術 ・課題探究力</p>
<p>授業計画表</p> <p>【坂口・谷】 自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的研究に関する具体的な研究方法について演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(坂口) 2 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(坂口) 3 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(坂口) 4 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(坂口) 5 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(坂口) 6 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析1(谷) 7 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析2(谷) 8 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析3(谷) 9 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析4(谷) 10 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析5(谷) 11 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション1(坂口、谷) 12 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション2(坂口、谷) 13 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション3(坂口、谷) 14 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッション4(坂口、谷) 15 まとめ
<p>成績評価方法と基準</p> <p>授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。</p>
<p>フィードバック</p> <p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
<p>自己学修</p> <p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料配付する。</p>
<p>参考資料</p> <p>授業中に紹介する。</p>
<p>研究室・オフィスアワー</p> <p>坂口：診療・研究棟4階412教室 谷：研究棟3階307教室</p>

新		
授業科目名	保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	鈴木俊明・福本悠樹

授業概要・目的
<p>高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼として、本学附属保健医療施設や大学院が勤務している関連施設のご協力をいただき、学生の医療資格に関する最新の治療技術を学び実践可能なように演習を行う。この臨床演習を通して、更なる新しい治療技術の開発が可能になることが期待できる。具体的には、理学療法領域で用いられている運動イメージや運動観察の最新の治療法の臨床応用に関する臨床演習を行う。</p>
到達目標
<p>保健医療技術開発学基盤講義、保健医療技術開発学実践演習の講義及び演習を通して得られた最新で高度な専門技術を、患者治療の臨床演習することで専門技術と自己研鑽力を習得できる。具体的には、理学療法領域で用いられている運動イメージや運動観察の最新の治療法を臨床演習を通して可能になる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・専門技術 ・自己研鑽力</p>
授業計画表
<p>1運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習1 2運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習2 3運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習3 4運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習4 5運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習5 6神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習1 7神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習2 8神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習3 9神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習4 10神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習5 11院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法を用いた症例報告とディスカッション1 12院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法を用いた症例報告とディスカッション2 13院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法を用いた症例報告とディスカッション3 14院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法を用いた症例報告とディスカッション4 15まとめ</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題50%、プレゼンテーション能力50%で評価する。</p>
フィードバック
<p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>・鈴木：4号館7階D724研究室 火曜日、金曜日12:30～13:00 ・福本：4号館5階D513第1共同研究室 月曜日12:30～13:00</p>

旧		
授業科目名	保健医療技術開発学臨床演習(鈴木・福本)	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	鈴木俊明・福本悠樹

授業概要・目的
<p>高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼として、本学附属保健医療施設や大学院が勤務している関連施設のご協力をいただき、学生の医療資格に関する最新の治療技術を学び実践可能なように演習を行う。この臨床演習を通して、更なる新しい治療技術の開発が可能になることが期待できる。</p>
到達目標
<p>保健医療技術開発学基盤講義、保健医療技術開発学実践演習の講義及び演習を通して得られた最新で高度な専門技術を、患者治療の臨床演習することで専門技術と自己研鑽力を習得できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・専門技術 ・自己研鑽力</p>
授業計画表
<p>【鈴木・福本】 理学療法領域で用いられている運動イメージや運動観察の最新の治療法の臨床応用に関する臨床演習を行う。</p> <p>1運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習1 2運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習2 3運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習3 4運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習4 5運動器疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習5 6神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習1 7神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習2 8神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習3 9神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習4 10神経疾患に対する運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する臨床演習5 11院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法を用いた症例報告とディスカッション1 12院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法を用いた症例報告とディスカッション2 13院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法を用いた症例報告とディスカッション3 14院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法を用いた症例報告とディスカッション4 15まとめ</p>
成績評価方法と基準
<p>授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。</p>
フィードバック
<p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>・鈴木：4号館7階724研究室 ・福本：4号館5階第一共同研究室</p>

新		
授業科目名	保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	大歳太郎

<p>授業概要・目的</p> <p>高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼として、本学附属保健医療施設や大学院が勤務している関連施設のご協力をいただき、学生の医療資格に関する最新の治療技術を学び実践可能なように演習を行う。この臨床演習を通して、更なる新しい治療技術の開発が可能になることが期待できる。具体的には、自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法の臨床応用に関する臨床演習を行う。</p>
<p>到達目標</p> <p>保健医療技術開発学基盤講義、保健医療技術開発学実践演習の講義及び演習を通して得られた最新で高度な専門技術を、患者治療の臨床演習することで専門技術と自己研鑽力を習得できる。自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法を臨床演習を行うことで可能になる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー</p> <p>・専門技術 ・自己研鑽力</p>
<p>授業計画表</p> <p>1 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習1 2 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習2 3 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習3 4 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習4 5 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習5 6 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習1 7 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習2 8 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習3 9 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習4 10 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習5 11 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法を用いた症例報告とディスカッション1 12 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法を用いた症例報告とディスカッション2 13 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法を用いた症例報告とディスカッション3 14 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法を用いた症例報告とディスカッション4 15 まとめ</p>
<p>成績評価方法と基準</p> <p>レポート課題50%、プレゼンテーション能力50%で評価する。</p>
<p>フィードバック</p> <p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
<p>自己学修</p> <p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料配付する。</p>
<p>参考資料</p> <p>授業中に紹介する。</p>
<p>研究室・オフィスアワー</p> <p>4号館7階D716研究室 月曜日12:30～13:00</p>

旧		
授業科目名	保健医療技術開発学臨床演習(大歳)	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	大歳太郎

<p>授業概要・目的</p> <p>高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼として、本学附属保健医療施設や大学院が勤務している関連施設のご協力をいただき、学生の医療資格に関する最新の治療技術を学び実践可能なように演習を行う。この臨床演習を通して、更なる新しい治療技術の開発が可能になることが期待できる。</p>
<p>到達目標</p> <p>保健医療技術開発学基盤講義、保健医療技術開発学実践演習の講義及び演習を通して得られた最新で高度な専門技術を、患者治療の臨床演習することで専門技術と自己研鑽力を習得できる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー</p> <p>・専門技術 ・自己研鑽力</p>
<p>授業計画表</p> <p>【大歳】 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法の臨床応用に関する臨床演習を行う。</p> <p>1 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習1 2 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習2 3 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習3 4 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習4 5 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法に関する臨床演習5 6 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習1 7 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習2 8 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習3 9 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習4 10 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の治療法に関する臨床演習5 11 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法を用いた症例報告とディスカッション1 12 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法を用いた症例報告とディスカッション2 13 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法を用いた症例報告とディスカッション3 14 自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法を用いた症例報告とディスカッション4 15 まとめ</p>
<p>成績評価方法と基準</p> <p>授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。</p>
<p>フィードバック</p> <p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
<p>自己学修</p> <p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料配付する。</p>
<p>参考資料</p> <p>授業中に紹介する。</p>
<p>研究室・オフィスアワー</p> <p>4号館D716研究室</p>

新		
授業科目名	保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	坂口俊二・谷万喜子

授業概要・目的
<p>高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼として、本学附属保健医療施設や大学院生が勤務している関連施設のご協力をいただき、学生の医療資格に関する最新の治療技術を学び実践可能なように演習を行う。この臨床演習を通して、更なる新しい治療技術の開発に寄与することが期待できる。具体的には、自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法の臨床応用に関する臨床演習を行う。</p>
到達目標
<p>保健医療技術開発学基盤講義、保健医療技術開発学実践演習の講義及び演習を通して得られた最新で高度な専門技術を、患者治療の臨床演習することで専門技術と自己研鑽力を習得できる。自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法を臨床演習から修得する。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・専門技術 ・自己研鑽力</p>
授業計画表
<ol style="list-style-type: none"> 1 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習1(坂口) 2 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習2(坂口) 3 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習3(坂口) 4 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習4(坂口) 5 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習5(坂口) 6 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習1(谷) 7 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習2(谷) 8 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習3(谷) 9 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習4(谷) 10 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習5(谷) 11 院生による自律神経機能障害及び神経疾患の最新の鍼灸治療法を用いた症例報告とディスカッション1(坂口、谷) 12 院生による自律神経機能障害及び神経疾患の最新の鍼灸治療法を用いた症例報告とディスカッション2(坂口、谷) 13 院生による自律神経機能障害及び神経疾患の最新の鍼灸治療法を用いた症例報告とディスカッション3(坂口、谷) 14 院生による自律神経機能障害及び神経疾患の最新の鍼灸治療法を用いた症例報告とディスカッション4(坂口、谷) 15 まとめ(坂口、谷)
成績評価方法と基準
<p>レポート課題50%、プレゼンテーション能力50%で評価する。</p>
フィードバック
<p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>坂口：診療・研究棟4階412教室 水曜日12:10～13:00 谷：診療・研究棟3階307教室 月曜日12:10～13:00</p>

旧		
授業科目名	保健医療技術開発学臨床演習(坂口・谷)	
講義開講時期	後期	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	2単位	
科目分類・分野名	専門教育科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	選択	
担当教員	専任教員	坂口俊二・谷万喜子

授業概要・目的
<p>高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼として、本学附属保健医療施設や大学院生が勤務している関連施設のご協力をいただき、学生の医療資格に関する最新の治療技術を学び実践可能なように演習を行う。この臨床演習を通して、更なる新しい治療技術の開発に寄与することが期待できる。</p>
到達目標
<p>保健医療技術開発学基盤講義、保健医療技術開発学実践演習の講義及び演習を通して得られた最新で高度な専門技術を、患者治療の臨床演習することで専門技術と自己研鑽力を習得できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・専門技術 ・自己研鑽力</p>
授業計画表
<p>【坂口・谷】 自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法の臨床応用に関する臨床演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習1(坂口) 2 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習2(坂口) 3 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習3(坂口) 4 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習4(坂口) 5 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習5(坂口) 6 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習1(谷) 7 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習2(谷) 8 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習3(谷) 9 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習4(谷) 10 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習5(谷) 11 院生による自律神経機能障害及び神経疾患の最新の鍼灸治療法を用いた症例報告とディスカッション1(坂口、谷) 12 院生による自律神経機能障害及び神経疾患の最新の鍼灸治療法を用いた症例報告とディスカッション2(坂口、谷) 13 院生による自律神経機能障害及び神経疾患の最新の鍼灸治療法を用いた症例報告とディスカッション3(坂口、谷) 14 院生による自律神経機能障害及び神経疾患の最新の鍼灸治療法を用いた症例報告とディスカッション4(坂口、谷) 15 まとめ
成績評価方法と基準
<p>授業への取り組み度、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する。</p>
フィードバック
<p>授業課題のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>講義内容に関する文献を調べて知識を深める。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>坂口：診療・研究棟4階412教室 谷：研究棟3階307教室</p>

新		
授業科目名	特別研究 I (鈴木)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	鈴木俊明

授業概要・目的
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。
到達目標
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・課題探究力 ・論理的思考力
授業計画表
【鈴木】 運動イメージ、運動観察の臨床応用に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。 1先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8予備研究の結果から研究計画を決定する1 9予備研究の結果から研究計画を決定する2 10予備研究の結果から研究計画を決定する3 11予備研究の結果から研究計画を決定する4 12研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D724研究室 火曜日・金曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	特別研究 I (鈴木)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	鈴木俊明

授業概要・目的
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。
到達目標
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・課題探究力 ・論理的思考力
授業計画表
【鈴木】 運動イメージ、運動観察の臨床応用に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。 1先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8予備研究の結果から研究計画を決定する1 9予備研究の結果から研究計画を決定する2 10予備研究の結果から研究計画を決定する3 11予備研究の結果から研究計画を決定する4 12研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究計画に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館D724研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(伊藤)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	伊藤俊治

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【伊藤】 主に運動器に起こる物質的な変化を細胞生物学的・分子生物学的手法を用いて解析する手法に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備の指導を行う。</p> <p>1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>診療・研究棟4階407研究室 金曜を除く随時。研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。</p>

旧
<p>(追加)</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(西)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	西 理宏

授業概要・目的
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。
到達目標
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・課題探究力 ・論理的思考力
授業計画表
【西】 糖尿病の遺伝子分析研究に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。 1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟3階309研究室 水曜日15:30以降。会議、出張が多いので事前連絡必要。

旧		
授業科目名	特別研究Ⅰ(西)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	西 理宏

授業概要・目的
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。
到達目標
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・課題探究力 ・論理的思考力
授業計画表
【西】 糖尿病の遺伝子分析研究に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。 1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究計画に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(大歳)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大歳太郎

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【大歳】 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8予備研究の結果から研究計画を決定する1 9予備研究の結果から研究計画を決定する2 10予備研究の結果から研究計画を決定する3 11予備研究の結果から研究計画を決定する4 12研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>4号館7階D716研究室 月曜日12:30～13:00</p>

旧		
授業科目名	特別研究Ⅰ(大歳)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大歳太郎

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【大歳】 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8予備研究の結果から研究計画を決定する1 9予備研究の結果から研究計画を決定する2 10予備研究の結果から研究計画を決定する3 11予備研究の結果から研究計画を決定する4 12研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>授業への取り組み度、研究計画に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>4号館D716研究室</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(坂口)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	坂口俊二

授業概要・目的
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。
到達目標
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・課題探究力 ・論理的思考力
授業計画表
【坂口】 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データに関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。 1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階412教室 水曜日12:10～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅰ(坂口)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	坂口俊二

授業概要・目的
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。
到達目標
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・課題探究力 ・論理的思考力
授業計画表
【坂口】 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データに関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。 1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究計画に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階412教室

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(竹田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	竹田知広

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力　・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【竹田】 血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8予備研究の結果から研究計画を決定する1 9予備研究の結果から研究計画を決定する2 10予備研究の結果から研究計画を決定する3 11予備研究の結果から研究計画を決定する4 12研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>管理棟2階208研究室 月曜日13:00～15:00</p>

旧		
授業科目名	特別研究Ⅰ(竹田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	竹田知広

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力　・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【竹田】 血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8予備研究の結果から研究計画を決定する1 9予備研究の結果から研究計画を決定する2 10予備研究の結果から研究計画を決定する3 11予備研究の結果から研究計画を決定する4 12研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>授業への取り組み度、研究計画に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>1号館207研究室</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(谷)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷 万喜子

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【谷】 神経疾患に対する鍼治療で用いる経穴への鍼刺激が、筋機能および神経機能にもたらす影響に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>診療・研究棟3階307教室 月曜日12:10～13:00</p>

旧
<p>(追加)</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ（谷埜）	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷埜 予士次

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【谷埜】 身体運動学および運動器疾患理学療法法の臨床応用に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学修し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>4号館7階D723研究室 月曜日12:15～13:00</p>

旧
<p>（追加）</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ（深澤）	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	深澤洋滋

授業概要・目的
<p>関連する論文を調査・理解することにより、最新の研究動向を把握した上で、興味を持って取り組める研究課題を決定し、研究計画を設計することを目的とする。研究課題に沿った研究計画の設計を行い、研究プロセスや研究方法などが妥当であるかを検討し、研究計画書を作成する。その後、指導教員の指導のもと、研究計画を確定し、研究計画発表会にて発表を行う。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び設計には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究課題に沿って、妥当な研究プロセス、研究方法を用いて論理的に具体化できる研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【深澤】 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1 研究倫理に関する講習会の受講 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 4 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 8 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 9 実験動物を利用するための講習会の受講および実験動物実施に係る書類の作成 10 実験手技の習得および予備実験の実施1 11 実験手技の習得および予備実験の実施2 12 実験手技の習得および予備実験の実施3 13 実験手技の習得および予備実験の実施4 14 実験手技の習得および予備実験の実施5 15 研究計画発表会の準備</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画の妥当性やプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>講義中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>診療・研究棟4階404研究室 木曜日12:30～13:00</p>

旧
<p>（追加）</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(吉田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	吉田直樹

授業概要・目的		
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。		
到達目標		
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・課題探究力 ・論理的思考力		
授業計画表		
【吉田】 運動計測・運動制御、リハビリテーション機器に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。		
1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		
フィードバック		
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。		
自己学修		
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。		
テキスト		
必要に応じて資料配付する。		
参考資料		
授業中に紹介する。		
研究室・オフィスアワー		
4号館7階D715研究室 月曜日・水曜日 16:30～17:00		

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(大瀧)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大瀧博文

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力　・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【大瀧】 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8予備研究の結果から研究計画を決定する1 9予備研究の結果から研究計画を決定する2 10予備研究の結果から研究計画を決定する3 11予備研究の結果から研究計画を決定する4 12研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>管理棟2階207研究室 月曜日12:30～13:00</p>

旧		
授業科目名	特別研究Ⅰ(大瀧)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大瀧博文

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力　・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【大瀧】 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8予備研究の結果から研究計画を決定する1 9予備研究の結果から研究計画を決定する2 10予備研究の結果から研究計画を決定する3 11予備研究の結果から研究計画を決定する4 12研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>授業への取り組み度、研究計画に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>管理棟207研究室</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(木村)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>
到達目標
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>
授業計画表
<p>【木村】 鍼灸刺激が筋酸素動態及び心拍数、血圧などの循環動態に及ぼす影響についての研究計画の立案、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究計画に関する検討を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容について、文献を検索し、関連する書籍や論文を読み、理解すること。</p>
テキスト
<p>研究に関する資料を配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>診療・研究棟4階414研究室 火曜日12:00～13:00</p>

旧
<p>(追加)</p>

新		
授業科目名	特別研究 I (文野)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	文野住文

授業概要・目的
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。
到達目標
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・課題探究力 ・論理的思考力
授業計画表
【文野】 運動イメージの神経生理学的検討に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。 1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D719研究室 木曜日12:10～13:00

旧		
授業科目名	特別研究 I (文野)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	文野住文

授業概要・目的
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。
到達目標
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・課題探究力 ・論理的思考力
授業計画表
【文野】 運動イメージの神経生理学的検討に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。 1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究計画に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D711研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅰ(福本)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	福本悠樹

授業概要・目的
 研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。

到達目標
 研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
 ・課題探究力 ・論理的思考力

授業計画表
 【福本】
 運動イメージ、または運動イメージを利用した運動学習効果に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。

- 1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1
- 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2
- 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3
- 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1
- 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2
- 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3
- 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4
- 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1
- 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2
- 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3
- 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4
- 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1
- 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2
- 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3
- 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4

成績評価方法と基準
 レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。

フィードバック
 研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。

自己学修
 研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。

テキスト
 必要に応じて資料配付する。

参考資料
 授業中に紹介する。

研究室・オフィスアワー
 4号館5階D513第1共同研究室 月曜日12:30～13:00

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ（鈴木）	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習（対面授業とオンライン授業の併用）	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	鈴木俊明

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【鈴木】 運動イメージ、運動観察の臨床応用に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D724研究室 火曜日・金曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅱ（鈴木）	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習（対面授業とオンライン授業の併用）	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	鈴木俊明

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【鈴木】 運動イメージ、運動観察の臨床応用に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究内容に関するプレゼンテーション能力、論文作成能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館D724研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(伊藤)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	伊藤俊治

授業概要・目的
<p>研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。</p>
到達目標
<p>研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・情報処理力 ・課題解決力</p>
授業計画表
<p>【伊藤】 主に運動器に起こる物質的な変化を細胞生物学的・分子生物学的手法を用いて解析する手法に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>診療・研究棟4階407研究室 金曜を除く随時。研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。</p>

旧
<p>(追加)</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(西)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	西 理宏

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【西】 糖尿病の遺伝子分析研究に関する 研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。
1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟3階309研究室 水曜日15:30以降。会議、出張が多いので事前連絡必要。

旧		
授業科目名	特別研究Ⅱ(西)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	西 理宏

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【西】 糖尿病の遺伝子分析研究に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。
1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究内容に関するプレゼンテーション能力、論文作成能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(大歳)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大歳太郎

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【大歳】 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D716研究室 月曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅱ(大歳)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大歳太郎

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【大歳】 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究内容に関するプレゼンテーション能力、論文作成能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館D716研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(坂口)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	坂口俊二

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【坂口】 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データに関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階412教室 水曜日12:10～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅱ(坂口)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	坂口俊二

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【坂口】 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データに関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究内容に関するプレゼンテーション能力、論文作成能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階412教室

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(竹田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	竹田知広

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【竹田】 血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
管理棟2階208研究室 月曜日13:00～15:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅱ(竹田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	竹田知広

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【竹田】 血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究内容に関するプレゼンテーション能力、論文作成能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
1号館207研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(谷)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷 万喜子

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【谷】 神経疾患に対する鍼治療で用いる経穴への鍼刺激が、筋機能および神経機能にもたらす影響に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟3階307教室 月曜日12:10～13:00

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(谷埜)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷埜 予士次

授業概要・目的
<p>研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。</p>
到達目標
<p>研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・情報処理力 ・課題解決力</p>
授業計画表
<p>【谷埜】 身体運動学および運動器疾患理学療法法の臨床応用に関する研究方法論の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学修し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>4号館7階D723研究室 月曜日12:15～13:00</p>

旧
<p>(追加)</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ（深澤）	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習（対面授業とオンライン授業の併用）	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	深澤洋滋

授業概要・目的
<p>研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し最終的な研究計画を立案する。研究計画を実際に遂行するのに必要な実験手技、機器・器具の取り扱い、培養細胞や実験動物の扱いなどを、実験を通じて習得する。さらに、研究計画に従って研究を行い、実験データを集積し、実験データの解析法も修得する。さらに、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進め、論文を投稿できることを目標とする。</p>
到達目標
<p>研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・情報処理力 ・課題解決力</p>
授業計画表
<p>【深澤】 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 研究の実施と研究結果に関する討議6 7 研究の実施と研究結果に関する討議7 8 研究の実施と研究結果に関する討議8 9 論文作成に関する指導1 10 論文作成に関する指導2 11 論文作成に関する指導3 12 論文作成に関する指導4 13 論文投稿の準備と指導1 14 論文投稿の準備と指導2 15 論文投稿の準備と指導3</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>上記、各項目についての解説や指導などによりフィードバックを行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>講義中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>診療・研究棟4階404研究室 木曜日12:30～13:00</p>

旧
<p>（追加）</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(吉田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	吉田直樹

授業概要・目的
<p>研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。</p>
到達目標
<p>研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・情報処理力 ・課題解決力</p>
授業計画表
<p>【吉田】 運動計測・運動制御、リハビリテーション機器に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>4号館7階D715研究室 月曜日・水曜日 16:30～17:00</p>

旧
<p>(追加)</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(大瀧)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大瀧博文

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【大瀧】 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
管理棟2階207研究室 月曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅱ(大瀧)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大瀧博文

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【大瀧】 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究内容に関するプレゼンテーション能力、論文作成能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
管理棟207研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(木村)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的
<p>研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。</p>
到達目標
<p>研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・情報処理力 ・課題解決力</p>
授業計画表
<p>【木村】 鍼灸刺激が筋酸素動態及び心拍数、血圧などの循環動態に及ぼす影響についての研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容について、文献を検索し、関連する書籍や論文を読み、理解すること。</p>
テキスト
<p>研究に関する資料を配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>診療・研究棟4階414研究室 火曜日12:00～13:00</p>

旧
<p>(追加)</p>

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(文野)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	文野住文

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【文野】 運動イメージの神経生理学的検討に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D719研究室 木曜日12:10～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅱ(文野)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	文野住文

授業概要・目的
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。
到達目標
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・情報処理力 ・課題解決力
授業計画表
【文野】 運動イメージの神経生理学的検討に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1研究の実施と研究結果に関する討議1 2研究の実施と研究結果に関する討議2 3研究の実施と研究結果に関する討議3 4研究の実施と研究結果に関する討議4 5研究の実施と研究結果に関する討議5 6論文作成に関する指導1 7論文作成に関する指導2 8論文作成に関する指導3 9論文作成に関する指導4 10論文作成に関する指導5 11論文投稿の準備と指導1 12論文投稿の準備と指導2 13論文投稿の準備と指導3 14論文投稿の準備と指導4 15論文投稿の準備と指導5
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、研究内容に関するプレゼンテーション能力、論文作成能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D711研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅱ(福本)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	福本悠樹

授業概要・目的
<p>研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。</p>
到達目標
<p>研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。</p>
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
<p>・情報処理力 ・課題解決力</p>
授業計画表
<p>【福本】 運動イメージ、または運動イメージを利用した運動学習効果に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5</p>
成績評価方法と基準
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>
フィードバック
<p>研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>
自己学修
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>
テキスト
<p>必要に応じて資料配付する。</p>
参考資料
<p>授業中に紹介する。</p>
研究室・オフィスアワー
<p>4号館5階D513第1共同研究室 月曜日12:30～13:00</p>

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(鈴木)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	鈴木俊明

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【鈴木】 運動イメージ、運動観察の臨床応用に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D724研究室 火曜日・金曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅲ(鈴木)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	鈴木俊明

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【鈴木】 運動イメージ、運動観察の臨床応用に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、論文作成能力、総合的な研究内容に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館D724研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(伊藤)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	伊藤俊治

授業概要・目的		
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。		
到達目標		
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・問題解決力 ・自己研鑽力		
授業計画表		
【伊藤】 主に運動器に起こる物質的な変化を細胞生物学的・分子生物学的手法を用いて解析する手法に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		
フィードバック		
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。		
自己学修		
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。		
テキスト		
必要に応じて資料配付する。		
参考資料		
授業中に紹介する。		
研究室・オフィスアワー		
診療・研究棟4階407研究室 金曜を除く随時。研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。		

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(西)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	西 理宏

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理のうちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【西】 糖尿病の遺伝子分析研究に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟3階309研究室 水曜日15:30以降。会議、出張が多いので事前連絡必要。

旧		
授業科目名	特別研究Ⅲ(西)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	西 理宏

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理のうちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【西】 糖尿病の遺伝子分析研究に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、論文作成能力、総合的な研究内容に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(大歳)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大歳太郎

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【大歳】 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D716研究室 月曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅲ(大歳)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大歳太郎

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【大歳】 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、論文作成能力、総合的な研究内容に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館D716研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(坂口)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	坂口俊二

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【坂口】 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データに関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階412教室 水曜日12:10～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅲ(坂口)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	坂口俊二

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【坂口】 自律神経機能障害に対する鍼灸刺激により変化する体温、血圧、皮膚温などの生体データに関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、論文作成能力、総合的な研究内容に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階412教室

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(竹田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	竹田知広

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理のうちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【竹田】 血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
管理棟2階208研究室 月曜日13:00～15:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅲ(竹田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	竹田知広

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理のうちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【竹田】 血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、論文作成能力、総合的な研究内容に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
1号館207研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(谷)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷 万喜子

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
<p>【谷】 神経疾患に対する鍼治療で用いる経穴への鍼刺激が、筋機能および神経機能にもたらす影響に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ</p>
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟3階307教室 月曜日12:10～13:00

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(谷埜)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷埜 予士次

授業概要・目的		
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。		
到達目標		
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・問題解決力 ・自己研鑽力		
授業計画表		
【谷埜】 身体運動学および運動器疾患理学療法法の臨床応用に関する研究論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		
フィードバック		
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。		
自己学修		
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学修し理解しておくこと。		
テキスト		
必要に応じて資料配付する。		
参考資料		
授業中に紹介する。		
研究室・オフィスアワー		
4号館7階D723研究室 月曜日12:15～13:00		

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(深澤)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	深澤洋滋

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
<p>【深澤】 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ</p>
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
講義中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階404研究室 木曜日12:30～13:00

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(吉田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	吉田直樹

授業概要・目的		
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。		
到達目標		
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・問題解決力 ・自己研鑽力		
授業計画表		
【吉田】 運動計測・運動制御、リハビリテーション機器に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		
フィードバック		
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。		
自己学修		
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。		
テキスト		
必要に応じて資料配付する。		
参考資料		
授業中に紹介する。		
研究室・オフィスアワー		
4号館7階D715研究室 月曜日・水曜日16:30～17:00		

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(大瀧)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大瀧博文

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理のうちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【大瀧】 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
管理棟2階207研究室 月曜日12:30～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅲ(大瀧)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	大瀧博文

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理のうちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【大瀧】 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、論文作成能力、総合的な研究内容に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
管理棟207研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(木村)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【木村】 鍼灸刺激が筋酸素動態及び心拍数、血圧などの循環動態に及ぼす影響についての研究論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容について、文献を検索し、関連する書籍や論文を読み、理解すること。
テキスト
研究に関する資料を配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階414研究室 火曜日12:00～13:00

旧
(追加)

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(文野)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	文野住文

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【文野】 運動イメージの神経生理学的検討に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D719研究室 木曜日12:10～13:00

旧		
授業科目名	特別研究Ⅲ(文野)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	文野住文

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【文野】 運動イメージの神経生理学的検討に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15まとめ
成績評価方法と基準
授業への取り組み度、論文作成能力、総合的な研究内容に関するプレゼンテーション能力を総合的に評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D711研究室

新		
授業科目名	特別研究Ⅲ(福本)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	福本悠樹

授業概要・目的
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。
到達目標
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー
・問題解決力 ・自己研鑽力
授業計画表
【福本】 運動イメージ、または運動イメージを利用した運動学習効果に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ
成績評価方法と基準
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。
フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館5階D513第1共同研究室 月曜日12:30~13:00

旧
(追加)

新

別記様式第3号 (その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等													
(保健医療学研究科 保健医療学専攻)													
前判定結果	調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担単位数	年開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する 過当たり平均日数
D可	①	専	教授 (研究科長)	スズキ トシアキ 鈴木 俊明 <令和6年4月>	61	博士 (医学)	823	保健医療研究方法特論Ⅰ*	1前	0.4	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 研究科長 教務部長 (平15.4)	5.5日
再判定								保健医療技術開発学基礎講義Ⅰ	1後	2	1		
D㊤								保健医療技術開発学実践演習Ⅰ	1後	2	1		
D可	②	専	教授 (副研究科長)	イトウ ショウジ 伊藤 俊治 <令和6年4月>	58	博士 (理学)	674	保健医療研究方法特論Ⅰ*	1前	0.5	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 副研究科長 (平25.10)	5.5日
新規								保健医療研究方法特論Ⅱ*	1前	0.4	1		
D可								特別研究Ⅰ	1通	4	1		
D可	③	専	教授	ニシ マサヒロ 西 理宏 <令和6年4月>	66 (高)	医学博士	667	保健医療研究方法特論Ⅰ*	1前	0.5	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (令5.4)	5.5日
D㊤								特別研究Ⅰ	1通	4	1		
再判定								特別研究Ⅱ	2通	4	1		
D㊤	④	専	教授	オオトシ タロウ 大蔵 太郎 <令和6年4月>	50	博士 (保健学)	825	保健医療技術開発学基礎講義Ⅱ	1後	2	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 学科学長 (平30.4)	5.5日
D㊤								保健医療技術開発学実践演習Ⅱ	1後	2	1		
再判定								保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ	1後	2	1		
D可	⑤	専	教授	サカグチ ショウジ 坂口 俊二 <令和6年4月>	55	博士 (医学)	740	保健医療研究方法特論Ⅱ*	1前	0.8	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (平15.4)	5.5日
再判定								保健医療技術開発学基礎講義Ⅲ*	1後	1.3	1		
D㊤								保健医療技術開発学実践演習Ⅲ*	1後	1.3	1		
D㊤	⑥	専	教授	タケダ トモヒロ 竹田 知広 <令和6年4月>	44	博士 (医学)	633	保健医療科学基礎講義Ⅰ*	1後	1.3	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (平25.4)	5.5日
再判定								保健医療科学実践演習Ⅰ*	1後	1.3	1		
D㊤								特別研究Ⅰ	1通	4	1		
D可	⑦	専	教授	タニノ ヨシツグ 谷 予士次 <令和6年4月>	52	博士 (医学)	678	保健医療技術開発学基礎講義Ⅲ*	1後	1.3	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (平15.4)	5.5日
再判定								保健医療技術開発学実践演習Ⅲ*	1後	1.3	1		
新規								保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ*	1後	1.3	1		
D可	⑧	専	教授	フカザワ ヨウジ 深澤 洋滋 <令和6年4月>	56	博士 (医学)	688	保健医療研究方法特論Ⅰ*	1前	0.5	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (平16.4)	5.5日
再判定								保健医療研究方法特論Ⅱ*	1前	0.4	1		
新規								特別研究Ⅰ	1通	4	1		
D可	⑨	専	教授	ヨシダ ナオキ 吉田 直樹 <令和6年4月>	59	博士 (工学)	808	保健医療研究方法特論Ⅰ*	1前	0.5	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (令5.4)	5.5日
再判定								保健医療研究方法特論Ⅱ*	1前	0.4	1		
D㊤								特別研究Ⅰ	1通	4	1		
D可	⑩	専	准教授	オオタキ ヒロフミ 大瀧 博文 <令和6年4月>	41	博士 (医学)	551	保健医療科学基礎講義Ⅰ*	1後	1.3	1	関西医科大学 保健医療学部 准教授 (平26.4)	5.5日
再判定								保健医療科学実践演習Ⅰ*	1後	1.3	1		
D㊤								特別研究Ⅰ	1通	4	1		
D可	⑪	専	准教授	キムラ ケンイチ 木村 研一 <令和6年4月>	53	博士 (医学)	650	保健医療科学基礎講義Ⅲ	1後	2	1	関西医科大学 保健医療学部 准教授 (平15.4)	5.5日
再判定								保健医療科学実践演習Ⅲ	1後	2	1		
新規								特別研究Ⅰ	1通	4	1		
D可	⑫	専	准教授	フノ ヨシフミ 文野 佳文 <令和6年4月>	42	博士 (健康科学)	472	保健医療科学基礎講義Ⅱ*	1後	1.3	1	関西医科大学 保健医療学部 准教授 (平25.4)	5.5日
再判定								保健医療科学実践演習Ⅱ*	1後	1.3	1		
D㊤								特別研究Ⅰ	1通	4	1		
D可	⑬	専	講師	フクモト ユウキ 福本 悠樹 <令和6年4月>	31	博士 (健康科学)	426	保健医療技術開発学基礎講義Ⅰ*	1後	1.3	1	関西医科大学 保健医療学部 講師 (平29.4)	5.5日
再判定								保健医療技術開発学実践演習Ⅰ*	1後	1.3	1		
新規								保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ*	1後	2	1		

(注)
 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に就任する学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行う場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 3 「申請に係る学部等に就任する過当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

旧

別記様式第3号 (その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等													
(保健医療学研究科 保健医療学専攻)													
調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担単位数	年開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する 過当たり平均日数	
1	専	教授 (研究科長)	スズキ トシアキ 鈴木 俊明 <令和6年4月>	61	博士 (医学)	823	保健医療研究方法特論Ⅰ*	1前	0.4	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 研究科長 教務部長 (平15.4)	5.5日	
2	専	教授 (副研究科長)	イトウ ショウジ 伊藤 俊治 <令和6年4月>	58	博士 (理学)	674	保健医療研究方法特論Ⅰ*	1前	0.5	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 副研究科長 (平25.10)	5.5日	
3	専	教授	ニシ マサヒロ 西 理宏 <令和6年4月>	66 (高)	医学博士	667	保健医療研究方法特論Ⅰ*	1前	0.5	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (令6.4)	5.5日	
4	専	教授	オオトシ タロウ 大蔵 太郎 <令和6年4月>	50	博士 (保健学)	825	保健医療技術開発学基礎講義	1後	2	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 学科学長 (平30.4)	5.5日	
5	専	教授	サカグチ ショウジ 坂口 俊二 <令和6年4月>	55	博士 (医学)	740	保健医療研究方法特論Ⅱ*	1前	0.8	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (平15.4)	5.5日	
6	専	教授	タケダ トモヒロ 竹田 知広 <令和6年4月>	44	博士 (医学)	633	保健医療科学基礎講義	1後	2	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (平25.4)	5.5日	
7	専	教授	タニノ ヨシツグ 谷 予士次 <令和6年4月>	52	博士 (医学)	678	保健医療技術開発学基礎講義	1後	2	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (平15.4)	5.5日	
8	専	教授	タニノ ヨシツグ 谷 予士次 <令和6年4月>	52	博士 (医学)	678	保健医療研究方法特論Ⅱ*	1前	0.4	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 学科学長 (平19.4)	5.5日	
9	専	教授	フカザワ ヨウジ 深澤 洋滋 <令和6年4月>	56	博士 (医学)	688	保健医療研究方法特論Ⅰ*	1前	0.5	1	関西医科大学 保健医療学部 教授 (平16.4)	5.5日	
10	専	准教授	オオタキ ヒロフミ 大瀧 博文 <令和6年4月>	41	博士 (医学)	551	保健医療科学基礎講義	1後	2	1	関西医科大学 保健医療学部 准教授 (平26.4)	5.5日	
11	専	准教授	キムラ ケンイチ 木村 研一 <令和6年4月>	53	博士 (医学)	650	保健医療科学基礎講義	1後	2	1	関西医科大学 保健医療学部 准教授 (平15.4)	5.5日	
12	専	准教授	フノ ヨシフミ 文野 佳文 <令和6年4月>	42	博士 (健康科学)	472	保健医療科学基礎講義	1後	2	1	関西医科大学 保健医療学部 准教授 (平25.4)	5.5日	
13	専	講師	フクモト ユウキ 福本 悠樹 <令和6年4月>	31	博士 (健康科学)	426	保健医療技術開発学基礎講義	1後	2	1	関西医科大学 保健医療学部 講師 (平29.4)	5.5日	

(注)
 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に就任する学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行う場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 3 「申請に係る学部等に就任する過当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

授業科目名	特別研究 I (伊藤)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	伊藤俊治

授業概要・目的	
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>	
到達目標	
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>	
授業計画表	
<p>【伊藤】 主に運動器に起こる物質的な変化を細胞生物学的・分子生物学的手法を用いて解析する手法に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備の指導を行う。</p> <p>1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>	
成績評価方法と基準	
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>	

フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階407研究室 金曜を除く随時。研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

授業科目名	特別研究 I (谷)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷 万喜子

授業概要・目的		
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>		
到達目標		
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・課題探究力 ・論理的思考力		
授業計画表		
<p>【谷】 神経疾患に対する鍼治療で用いる経穴への鍼刺激が、筋機能および神経機能にもたらす影響に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		

フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟3階307教室 月曜日12:10～13:00

授業科目名	特別研究Ⅰ(谷埜)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷埜 予士次

授業概要・目的		
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>		
到達目標		
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>		
授業計画表		
<p>【谷埜】 身体運動学および運動器疾患理学療法の臨床応用に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>		
成績評価方法と基準		
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>		

フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学修し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D723研究室 月曜日12:15～13:00

授業科目名	特別研究Ⅰ（深澤）	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	深澤洋滋

授業概要・目的		
<p>関連する論文を調査・理解することにより、最新の研究動向を把握した上で、興味を持って取り組める研究課題を決定し、研究計画を設計することを目的とする。研究課題に沿った研究計画の設計を行い、研究プロセスや研究法などが妥当であるかを検討し、研究計画書を作成する。その後、指導教員の指導のもと、研究計画を確定し、研究計画発表会にて発表を行う。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び設計には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>		
到達目標		
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究課題に沿って、妥当な研究プロセス、研究方法を用いて論理的に具体化できる研究計画書が作成できる。</p>		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>		
授業計画表		
<p>【深澤】 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1 研究倫理に関する講習会の受講 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 4 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 8 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 9 実験動物を利用するための講習会の受講および実験動物実施に係る書類の作成 10 実験手技の習得および予備実験の実施1 11 実験手技の習得および予備実験の実施2 12 実験手技の習得および予備実験の実施3 13 実験手技の習得および予備実験の実施4 14 実験手技の習得および予備実験の実施5 15 研究計画発表会の準備</p>		
成績評価方法と基準		
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>		

フィードバック
研究計画の妥当性やプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
講義中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階404研究室 木曜日12:30～13:00

授業科目名	特別研究 I (吉田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	吉田直樹

授業概要・目的		
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>		
到達目標		
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>		
授業計画表		
<p>【吉田】 運動計測・運動制御、リハビリテーション機器に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>		
成績評価方法と基準		
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>		
フィードバック		
<p>研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。</p>		
自己学修		
<p>研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。</p>		
テキスト		
<p>必要に応じて資料配付する。</p>		
参考資料		
<p>授業中に紹介する。</p>		
研究室・オフィスアワー		
<p>4号館7階D715研究室 月曜日,水曜日16:30~17:00</p>		

授業科目名	特別研究 I (木村)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的		
<p>研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。</p>		
到達目標		
<p>研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。</p>		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
<p>・課題探究力 ・論理的思考力</p>		
授業計画表		
<p>【木村】 鍼灸刺激が筋酸素動態及び心拍数、血圧などの循環動態に及ぼす影響についての研究計画の立案、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4</p>		
成績評価方法と基準		
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>		

フィードバック
研究計画に関する検討を行う。
自己学修
研究内容について、文献を検索し、関連する書籍や論文を読み、理解すること。
テキスト
研究に関する資料を配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階414研究室 火曜日12:00～13:00

授業科目名	特別研究 I (福本)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・1年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	福本悠樹

授業概要・目的	
研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に研究計画の概要が決定できることを目的とする。研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成し研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。なお、本講義の主たる目的である研究計画の立案及び構築には、1年次で履修する共通教育科目、専門教育科目で得た知識を十分に活用することが必要となる。	
到達目標	
研究倫理の理解と研究課題を立案できる。研究方法を論理的に具体化でき研究計画書が作成できる。	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
・課題探究力 ・論理的思考力	
授業計画表	
【福本】 運動イメージ、または運動イメージを利用した運動学習効果に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。 1 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む1 2 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む2 3 先行研究から国内外の研究動向を理解し研究テーマを絞り込む3 4 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案1 5 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案2 6 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案3 7 研究テーマに関連する文献の収集分析検討と研究計画の立案4 8 予備研究の結果から研究計画を決定する1 9 予備研究の結果から研究計画を決定する2 10 予備研究の結果から研究計画を決定する3 11 予備研究の結果から研究計画を決定する4 12 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備1 13 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備2 14 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備3 15 研究倫理審査に関する書類の作成と研究計画発表会の準備4	
成績評価方法と基準	
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。	

フィードバック
研究計画のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館5階D513第1共同研究室 月曜日12:30～13:00

授業科目名	特別研究Ⅱ(伊藤)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	伊藤俊治

授業概要・目的		
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。		
到達目標		
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・情報処理力 ・課題解決力		
授業計画表		
【伊藤】 主に運動器に起こる物質的な変化を細胞生物学的・分子生物学的手法を用いて解析する手法に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。		
1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階407研究室 金曜を除く随時。研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

授業科目名	特別研究Ⅱ(谷)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷 万喜子

授業概要・目的		
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。		
到達目標		
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・情報処理力 ・課題解決力		
授業計画表		
【谷】 神経疾患に対する鍼治療で用いる経穴への鍼刺激が、筋機能および神経機能にもたらす影響に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。 1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟3階307教室 月曜日12:10～13:00

授業科目名	特別研究Ⅱ(谷埜)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷埜 予士次

授業概要・目的	
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。	
到達目標	
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
・情報処理力 ・課題解決力	
授業計画表	
【谷埜】 身体運動学および運動器疾患理学療法の臨床応用に関する研究方法論の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。	
1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5	
成績評価方法と基準	
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。	

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学修し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D723研究室 月曜日12:15～13:00

授業科目名	特別研究Ⅱ（深澤）	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習（対面授業とオンライン授業の併用）	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	深澤洋滋

授業概要・目的	
<p>研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し最終的な研究計画を立案する。研究計画を実際に遂行するのに必要な実験手技、機器・器具の取り扱い、培養細胞や実験動物の扱いなどを、実験を通じて習得する。さらに、研究計画に従って研究を行い、実験データを集積し、実験データの解析法も修得する。さらに、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進め、論文を投稿できることを目標とする。</p>	
到達目標	
<p>研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。</p>	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
<p>・情報処理力 ・課題解決力</p>	
授業計画表	
<p>【深澤】 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 研究の実施と研究結果に関する討議6 7 研究の実施と研究結果に関する討議7 8 研究の実施と研究結果に関する討議8 9 論文作成に関する指導1 10 論文作成に関する指導2 11 論文作成に関する指導3 12 論文作成に関する指導4 13 論文投稿の準備と指導1 14 論文投稿の準備と指導2 15 論文投稿の準備と指導3</p>	
成績評価方法と基準	
<p>レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。</p>	

フィードバック
上記、各項目についての解説や指導などによりフィードバックを行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
講義中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階404研究室 木曜日12:30～13:00

授業科目名	特別研究Ⅱ(吉田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	吉田直樹

授業概要・目的		
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。		
到達目標		
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・情報処理力 ・課題解決力		
授業計画表		
【吉田】 運動計測・運動制御、リハビリテーション機器に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。		
1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		
フィードバック		
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。		
自己学修		
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。		

テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D715研究室 月曜日,水曜日16:30~17:00

授業科目名	特別研究Ⅱ(木村)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的	
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。	
到達目標	
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
・情報処理力 ・課題解決力	
授業計画表	
【木村】 鍼灸刺激が筋酸素動態及び心拍数、血圧などの循環動態に及ぼす影響についての研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。	
1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5	
成績評価方法と基準	
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。	

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容について、文献を検索し、関連する書籍や論文を読み、理解すること。
テキスト
研究に関する資料を配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階414研究室 火曜日12:00～13:00

授業科目名	特別研究Ⅱ(福本)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・2年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	福本悠樹

授業概要・目的	
研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。論文を投稿できることを目標とする。	
到達目標	
研究計画書に応じた内容で研究を実施し、研究結果の解釈を深めることで研究論文を作成することができる。	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
・情報処理力 ・課題解決力	
授業計画表	
【福本】 運動イメージ、または運動イメージを利用した運動学習効果に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。	
1 研究の実施と研究結果に関する討議1 2 研究の実施と研究結果に関する討議2 3 研究の実施と研究結果に関する討議3 4 研究の実施と研究結果に関する討議4 5 研究の実施と研究結果に関する討議5 6 論文作成に関する指導1 7 論文作成に関する指導2 8 論文作成に関する指導3 9 論文作成に関する指導4 10 論文作成に関する指導5 11 論文投稿の準備と指導1 12 論文投稿の準備と指導2 13 論文投稿の準備と指導3 14 論文投稿の準備と指導4 15 論文投稿の準備と指導5	
成績評価方法と基準	
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。	

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館5階D513第1共同研究室 月曜日12:30～13:00

授業科目名	特別研究Ⅲ(伊藤)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	伊藤俊治

授業概要・目的	
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。	
到達目標	
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
・問題解決力 ・自己研鑽力	
授業計画表	
<p>【伊藤】 主に運動器に起こる物質的な変化を細胞生物学的・分子生物学的手法を用いて解析する手法に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ</p>	
成績評価方法と基準	
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。	

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階407研究室 金曜を除く随時。研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

授業科目名	特別研究Ⅲ(谷)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷 万喜子

授業概要・目的	
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。	
到達目標	
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
・問題解決力 ・自己研鑽力	
授業計画表	
<p>【谷】 神経疾患に対する鍼治療で用いる経穴への鍼刺激が、筋機能および神経機能にもたらす影響に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ</p>	
成績評価方法と基準	
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。	

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟3階307教室 月曜日12:10～13:00

授業科目名	特別研究Ⅲ(谷埜)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	谷埜 予士次

授業概要・目的	
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。	
到達目標	
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
・問題解決力 ・自己研鑽力	
授業計画表	
【谷埜】 身体運動学および運動器疾患理学療法法の臨床応用に関する研究論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。	
1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ	
成績評価方法と基準	
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。	

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学修し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D723研究室 月曜日12:15～13:00

授業科目名	特別研究Ⅲ(深澤)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	深澤洋滋

授業概要・目的		
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。		
到達目標		
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・問題解決力 ・自己研鑽力		
授業計画表		
【深澤】 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
講義中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階404研究室 木曜日12:30～13:00

授業科目名	特別研究Ⅲ(吉田)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	吉田直樹

授業概要・目的		
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。		
到達目標		
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・問題解決力 ・自己研鑽力		
授業計画表		
【吉田】 運動計測・運動制御、リハビリテーション機器に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。		
1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		
フィードバック		
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。		
自己学修		
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。		

テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館7階D715研究室 月曜日,水曜日16:30~17:00

授業科目名	特別研究Ⅲ(木村)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	木村研一

授業概要・目的		
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。		
到達目標		
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。		
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー		
・問題解決力 ・自己研鑽力		
授業計画表		
【木村】 鍼灸刺激が筋酸素動態及び心拍数、血圧などの循環動態に及ぼす影響についての研究論文の完成(論文受理)及び公開発表に向けた準備を行う。 1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ		
成績評価方法と基準		
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。		

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容について、文献を検索し、関連する書籍や論文を読み、理解すること。
テキスト
研究に関する資料を配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
診療・研究棟4階414研究室 火曜日12:00～13:00

授業科目名	特別研究Ⅲ(福本)	
講義開講時期	通年	
授業形態	演習(対面授業とオンライン授業の併用)	
基準単位数	4単位	
科目分類・分野名	特別研究科目	
科目ナンバリング		
対象学科・学年	保健医療学研究科 博士後期課程・3年	
必修/選択	必修	
担当教員	専任教員	福本悠樹

授業概要・目的	
投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。	
到達目標	
作成した研究論文を科学雑誌で公表することができ、公開発表会でのプレゼンテーションから研究者に必要な問題解決力と自己研鑽力を獲得することができる。	
ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー	
・問題解決力 ・自己研鑽力	
授業計画表	
<p>【福本】 運動イメージ、または運動イメージを利用した運動学習効果に関する論文の完成(論文受理)及び公開発表会に向けた準備を行う。</p> <p>1 投稿論文に対する査読内容に対する指導1 2 投稿論文に対する査読内容に対する指導2 3 投稿論文に対する査読内容に対する指導3 4 投稿論文に対する査読内容に対する指導4 5 投稿論文に対する査読内容に対する指導5 6 投稿論文に対する査読内容に対する指導6 7 投稿論文に対する査読内容に対する指導7 8 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導1 9 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導2 10 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導3 11 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導4 12 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導5 13 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導6 14 公開発表会に向けたプレゼンテーション指導7 15 まとめ</p>	
成績評価方法と基準	
レポート課題40%、プレゼンテーション能力60%で評価する。	

フィードバック
研究内容のプレゼンテーションに関する解説を行う。
自己学修
研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておくこと。
テキスト
必要に応じて資料配付する。
参考資料
授業中に紹介する。
研究室・オフィスアワー
4号館5階D513第1共同研究室 月曜日12:30～13:00